日本建築学会大会学術講演梗概集
（関東） 2020 年 9 月

拡張型団地コミュニティ形成に向けた実証実験「第 2 回あけぼのテラス」

公的集合住宅団地の集約化手法に関する研究　その 5

正会員　○ 籔谷　祐介 *
同　　山田　信博 **

集約化　公的集合住宅団地　地域活動
共用空間　コミュニティデザイン　実証実験

1. 研究の背景と目的

高度経済成長期に建てられた公的集合住宅団地は、高齢化や建物の老朽化等の課題を抱えている。そのため、需要が低下する郊外部の団地では集約化が計画されている。その過程では、団地居住者（以下、居住者）は別棟や周辺団地へ移転し、移転先で孤立化することが懸念される。

一方、団地の集会所やオープンスペース等の共用空間は、団地コミュニティの形成に多面的に関わってきた[1)]。それらはまた、周辺地域においても貴重な空間資源であり、活動場所を求めている団地周辺居住者（以下、周辺居住者）による利活用ニーズが存在する。そこで、そうした空間資源を地域に解放し、団地内外のコミュニティネットワークを構築することで、団地集約化におけるコミュニティ分断の課題を解決できるのではないかと考えらえる。

筆者らは、UR あけぼの団地において開かれたコミュニティ活動のプログラム開発と担い手育成に向けて、2018 年に共用空間を活用した実証実験「第 1 回あけぼのテラス」を実施した。その結果、普段地域活動に参加していない居住者や周辺居住者の参加が見られ[1)]、団地内外のコミュニティがネットワークされる拡張型団地コミュニティの形成の場としての可能性を示唆した。本稿では、さらなる検証のために 2019 年に実施した「第 2 回あけぼのテラス」(写真 1）の概要と結果について報告する。

2. UR あけぼの団地の概要

UR あけぼの団地は、1963 ～ 1967 年に日本住宅公団によって開発された札幌市にある RC5 階建ての集合住宅団地で、棟数が 32 棟、住宅戸数 1240 戸である。平成 27 年の国勢調査によると、人口 1471 人、高齢化率 49.4％で、空き家数は 397 戸（空き家率 32.0％）である。

3. 実証実験「第 2 回あけぼのテラス」の概要

第 1 回は筆者らが主導したが、第 2 回は団地居住者と協働で内容を検討するために、事前に 3 回のワークショップ「第 2 ～ 4 回あけぼのまちづくり講座」（以下、WS）を実施した（表 1)。WS では、屋外を使って多世代が集まってブランチを楽しむ「あけぼのブランチ」というコンセプトと、具体的なコンテンツとして「本」「食」「野菜」「健康」が挙げられた[2)]。

WS の成果をもとに、2019 年 9 月 14 日（土）10:00-15:00 に第 2 回を実施した。天候は曇りで、場所は集会所とその周辺のオープンスペースとした（図 2)。第 1 回で制作したオリジナル木箱「あけばこ」を、ディスプレイ棚、本棚、テーブル、椅子として活用した。また、第 1 回はコンテナを設置してカフェを運営したが、費用面から持続性に課題があったため、第 2 回はオリジナルテントを制作し、空間を構成した。告知は、団地の各棟の階段室の掲示板にチラシを掲示するとともに、団地周辺地域にも約 5000 部の新聞折込を行った。実施プログラムは WS で決定したもので、筆者らと団地居住者のネットワークを生かし出店者に依頼した（表 2)。

写真 1　実証実験「あけぼのテラス」

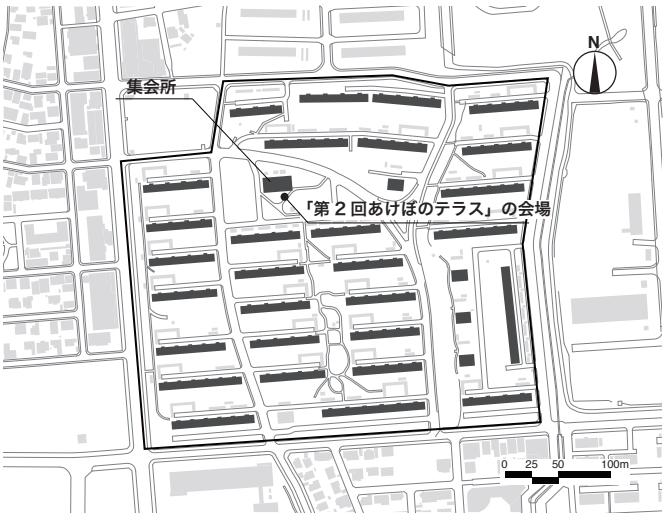

図 1　あけぼの団地の配置図

表 1　事前ワークショップの概要[2)]

名称	日時	内容	参加人数
第2回あけぼのまちづくり講座	2019年 3月23日（日） 10:00-11:30	・「第1回あけぼのテラス」の報告 ・共用空間の活用について話し合うワークショップ	17名
第3回あけぼのまちづくり講座	2019年 6月16日（日） 9:00-10:30	あけぼの団地らしい暮らしの実現に向けた実証実験プログラムのアイデア出しワークショップ	9名
第4回あけぼのまちづくり講座	2019年 7月14日（日） 9:00-10:30	実証実験のプログラム決定と役割分担について話し合うワークショップ	6名

Report on Demonstration Program “Akebono Terrace Part2” for Community Development of Residents in Apartment Complexes and its Surrounding Areas – Study on Integration Method of Public Apartment Complex Part5

YABUTANI Yusuke, YAMADA Nobuhiro

4. 実施結果

来場者は 156 名であった。詳細は次稿で報告するが、来場者を対象に行ったアンケートの回答数は、居住者が 25 名、周辺居住者は 38 名であった。第 1 回は 2 日間で 109 名だったので、団地周辺への告知の効果があったと考えられる。また、拡張型団地コミュニティ形成の場としての可能性を団地居住者と共有することができた。時間帯別来場者数をみると、午前中が多かった（図 3）。特に、パンや野菜は人気があり、早い時間に完売した。これらは、「あけぼのブランチ」というコンセプトが有効である可能性を示唆している。また、10 名の居住者が当日の運営に携わったこと、居住者の知人に出店の依頼をできたことで新たなプレイヤー発掘につながったことは、今後につながる WS の成果である。当日運営に携わった居住者からは、団地内の若い居住者の来場が少なかったためどうやって呼び込むか、買い物だけして帰ってしまう来場者も見られたためどうやって滞留時間を長くするか、運営に精一杯で来場者と話をする時間がなかったことが課題として挙げられた。さらに、今回は市内の高校や近隣の支援学校とも連携した。活力を求める団地と学びの場を求める高校というお互いのニーズが満たし、今後の連携の可能性を確認できた。

5. まとめ

本稿では実証実験「第 2 回あけぼのテラス」の実施結果を報告した。次稿では、来場者に実施したアンケート調査の結果を報告し、拡張型団地コミュニティの形成の場としての可能性を検討する。

参考文献

1) 籔谷祐介 , 山田信博 , 林匡宏：高経年団地におけるコミュニティ支援方策検討のための実証実験「あけぼのテラス」－公的集合住宅団地の集約化手法に関する研究 その 3, 日本建築学会学術講演梗概集 ,pp.1231-1232, 2019

2) 籔谷祐介 , 山田信博 , 林匡宏：高経年団地における居住者参加型実証実験の成果と課題 – コミュニティ活動の担い手創出の視点から , 日本建築学会北陸支部研究報告集 , 第 63 号 ,2020

表 2　実施プログラム別参加人数 [2)]

依頼担当	プログラム	運営主体	場所	参加人数（人）
団地	パン販売	うちは、ぱんや。	屋外	37
	飲食販売	高橋商店		—
	ドリンク販売	抹茶ラテSOU		45
	野菜販売	あけぼの団地有志の会		—
	風呂敷づくり	あけぼの団地自治会女性部		—
	ハーバリウム	団地居住者		9
	消しゴム	団地居住者		15
大学	カフェ	東海大学スリーカフェ		4
	パン販売	エビ工房		27
	お菓子販売	市立札幌みなみの杜高等支援学校		43
	駄菓子販売	札幌市立大学学生		—
	シェア窯	札幌市立大学学生		—
	活動展示	札幌市立大学団地サークル		—
	遊びコーナー	株式会社and&craft		—
	図書コーナー			—
	健康相談・健康チェック	札幌市立大学まちの健康応援室	集会所内	13
計				193
来場者（会場でカウント）				156

図 2 「第 2 回あけぼのテラス」配置計画

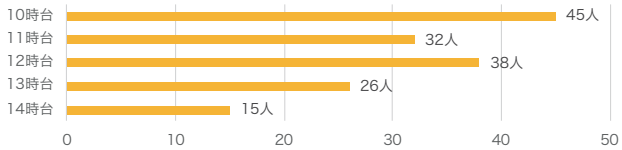

図 3　時間帯来場人数

写真 2　図書コーナー

写真 3　出張！まちの健康応援室

写真 4　あけぼのカフェテラス

写真 5　シェア窯

写真 6　野菜販売

写真 7　遊びコーナー

*　富山大学芸術文化学部　講師・博士（デザイン学）　*Senior Assist. Prof., Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama, Doctor of Design

**　札幌市立大学デザイン学部　准教授・博士（学術）　**Associate Prof., School of Design, Sapporo City Univ., Ph.D.